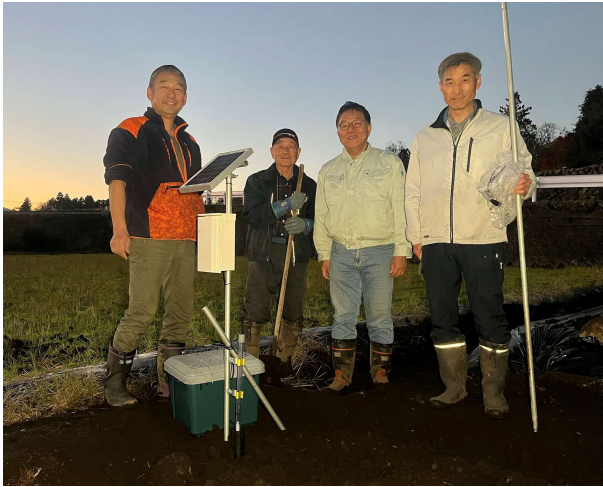


奥越地域にオリーブ新産業を創出可能な要素技術の開発

株式会社ヤマダ殖産



水はけの悪い圃場である水田の耕作放棄地を利用したオリーブ（水捌けの良い圃場が必要）の栽培方法の研究。

企業名	株式会社ヤマダ殖産
業務内容	主に工業用長繊維の糸加工。 耕作放棄地を利用したオリーブ栽培 事業にも取り組んでいます。
所在地	勝山市平泉寺壁倉3-6
担当者	山田 晋洋
問合せ先	TEL 0779-87-1112 MAIL sinyou0422@gmail.com



企業HP

1.事業実施の経緯

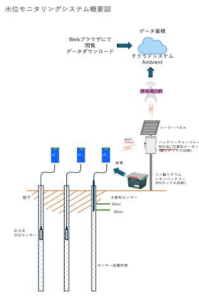
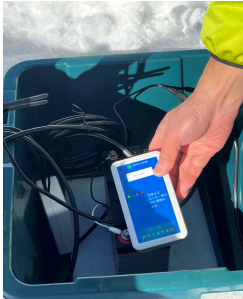
耕作放棄地となった水田の活用策を模索する中、収益性の高いオリーブ栽培に着目しました。しかし、大野市のオリーブ栽培では、雪解け水による地下水上昇が原因と考えられる木の枯れ事例が発生します。問題は、土の性質や保水力であると考え、これを改善することで土地に適した栽培方法の確立を目指す事業を開始しました。

2.事業内容

水田には地表面下30cm付近に耕盤層があり、水が溜まり易く、これが、水田でのオリーブの根腐れの要因と考えました。福井県工業技術センターの協力を得て、(株)グラスITフィールズと水位監視システムを構築しました。更に土中細菌を活用した耕盤層の破砕や排水対策に取り組みました。併せて、福井大学遠赤外領域開発研究センターと耐寒性苗木の研究や障害者施設九頭竜ワークショップと苗木の管理方法の確立し、寒冷地に適した作り方に取り組みました。

3.事業の成果

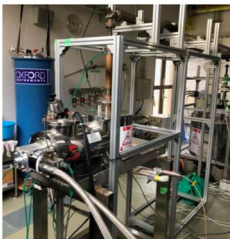
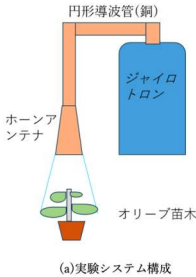
地表面下90cmまでの水位変化を観測したことにより、春先に地表下20cmまで水位上昇を確認しました。これにより最適な畝の高さや排水設計の指標を得ました。また、プロフ理論に基づき、酵母菌や納豆菌を用いた耕盤層の破砕と土壌の団粒化にも成功し、水はけの改善や根腐れ防止に向けた有効な手法ができました。



図：地下水位測定、地下水位測定装置設置

4.製品・技術のPR

オリーブが突然枯れる要因と考えられる根腐れに対し、水位管理や土壌改良により有効な対策が見えてきました。また、福井大学との共同研究で、苗木の電磁波照射による耐寒性の向上により、路地及びハウスでの越冬の生育差に違いが見られました。寒冷地適応型の苗木生産と環境制御技術が確立でき、地域特化型の栽培技術として広くPR可能です。



(a)実験システム構成

(b)コンパクトジャイロトロン装置

図：実験システム構成および装置

開発者の声

山田 晋洋

保水性の高い水田の土を、果樹栽培に適した水と空気のバランスが良い土へ改良するため、土中菌や有機物を活用した土壌改良に取り組みました。また、北陸特有の雪解け水による地下水の上昇を可視化し、排水対策も実施しました。これらにより、オリーブ栽培に適した環境整備の第一歩を踏み出すことができました。

経営者の声



代表取締役
山田 晋洋

軟水地域である日本の中でも寒冷地の特性を活かして、耐寒性に優れた高濃度オリーブの木づくりに挑戦していきます。寒冷地の軟水で育ったオリーブから得られる柔らかく濃厚なオイルやエキスをを用いて、ここでしか生まれない価値ある商品開発を進め、世界に通用する製品づくりをしたいと考えています。

